

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

【行動計画P. 5~7】

項目	事業名	担当課	(1)令和3年度実施状況				(2)目標指標の状況		
			取組内容	協働の相手	事業の評価	効果又は理由(改善策)	基準値(H27)	目標値(R3)	現状値(R3)
				①~⑦					
(1)情報交換の「場」をつくる	地域活動・市民活動交流会	市民協働推進課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、中止した事業もあったが、継続事業「地域円卓カフェ」を3回実施し、「市民フェスタ」「協働サミット」についても開催できた。さらに新たな事業「映像コンテスト」を実施し、地域活動を促進させることができた。	①②③④ ⑤	B	市民活動を活性化させるためにも、交流の場となる事業を効果的に実施していく必要がある。	参加者数 97人	参加者数 150人	参加者数 193人
	市民活動センターの設置運営	市民協働推進課	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策のため、中止した事業もあったが、事業実施への協力を得ることができた。市民活動センター利用者協議会役員会を開催し、市民活動センター運営についての共通理解を図ることに努めた。	①②③④ ⑤	B	利用者協議会との連携による事業の実施を目指していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で実施することができなかったため、引き続き、市民活動センターと利用者協議会の連携強化を目指す。	センター設置 未設置	センター設置 設置	H30.4.1設置
	結婚サポートセンターの設置運営	市民協働推進課	結婚サポートセンターの運営 縁結び事業・とちぎ結婚支援事業の実施 結婚サポートセンターに行かなくてもプロフィールが見れるシステムの導入	①⑦	A	R3のセンター設置目標はクリアできた。	センター設置 未設置	センター設置 設置	H29.7.6設置
	消費生活と環境展	生活課	令和3年度那須塩原市「消費生活と環境展」として以下を開催(参加団体数:28団体) ・「デジタル」消費生活と環境展(市特設ホームページにて情報パネルを1年間公開) ・消費生活と環境パネル巡回展示(まちなか交流センター「くるる」・健康長寿センターにてパネル巡回展示を合計20日間実施)	②	B	新型コロナウイルス感染対策のため内容を大きく変更し、課題であった西那須野地区・塩原地区の参加人数の増加を図った。 オンライン上及び市内2か所(黒磯地区・西那須野地区)での開催を20日間実施することにより、参加人数が3倍近くに増えたため、市民への消費者問題、環境問題への意識啓発を高めることができた。	来場者数 1,200人	来場者数 1,500人	参加者数 3,687人 (特設ホームページアクセス回数+まちなか交流センター「くるる」・健康長寿センターの来場者数)
	ふれあい広場	社会福祉課	第40回ふれあい広場は、従来のふれあいの機会をつくりたいという想いで、コロナ禍であってもできる形態を模索し、参加者のメッセージを集めたメッセージリーを、9月から12月末までいきいきふれあいセンター1階ロビーに展示した。	②③④	C	令和3年度、コロナ禍の中、飲食を伴う不特定多数参加のイベントは実施できない状況にあった。 参加団体とのつながりを継続するための取り組みとして、従来の広場とは形を変えて実施。今年は、新しい「ふれあい広場」を作り上げていく『ホップ・ステップ・ジャンプ』の第一段階「ホップ」の年として取り組んだ。	参加団体数 39団体	参加団体数 49団体	参加団体数 52団体
	社会福祉大会	社会福祉課	イベントの主催:第15回那須塩原市社会福祉協議会 開催日:なし 内容:表彰	①②③④ ⑤⑥⑦	D	健康長寿センターにおいて令和4年1月22日(土)に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により式典を取りやめることとなった。各受賞者には、表彰状及び大会プログラムを推薦団体等を通して伝達での表彰とした。	大会の開催 開催	大会の開催 充実	大会の開催 伝達表彰

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

【行動計画P. 5~7】

項目	事業名	担当課	(1)令和3年度実施状況				(2)目標指標の状況		
			取組内容	協働の相手	事業の評価	効果又は理由(改善策)	基準値(H27)	目標値(R3)	現状値(R3)
				①~⑦					
(1)情報交換の「場」をつくる	なすしおばらまなび博覧会	生涯学習課	宇都宮共和大学那須キャンパスを会場に、2日間実施。	①②⑤⑥	C	・コロナ禍の影響により令和2年度は開催を中止したが、内容を精査し感染対策を講じた上で、学びの場(特に発表の機会創出)として開催した。	来場者数 7,100人	来場者数 10,000人	来場者数 5,500人
	貸館による市民活動支援	公民館	貸館を制限した時期もあったが、感染予防対策を徹底し、市内15公民館において市民グループ、各種団体に対し活動の場を提供した。 また、Wi-Fiが整備されたことにより、インターネットを必要とする団体への貸館も行った。	①②③④ ⑤⑥⑦	C	利用者数は、利用制限等により目標値を大きく下回っているが、様々な団体が利用することにより、情報交換の場を提供することができた。	利用者数 406千人	利用者数 440千人	利用者数 144千人
	家庭教育支援事業	公民館	新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、多くの事業が中止となったが、屋外活動やものづくり教室、情報紙の発行など、コロナ禍においても実施可能な活動については、感染予防対策を講じ積極的に実施した。	①⑤	C	事業の中止もあり、参加者数は目標値に対し大幅に下回ったが、公民館と各小中学校、地域住民が協働し、家庭教育に関する学習、親子交流事業を実施し、地域住民や親子の絆を深めることができた。	参加者数 11,000人	参加者数 12,000人	参加者数 4,584人
	ひよこの会(託児ボランティアの活用)	三島公民館	令和3年度 全6回(市内参加希望親子10組) 開講時1歳~就園前の乳幼児を持つ親子を対象に、育児や家庭教育、親子で参加できるふれあい講座内容で実施。 親同士の仲間作りの場を提供。 ○リトミック(2回) ○親子体操(1回) ○ベビーマッサージ(1回) ○親子創作活動(1回) ○親子観劇(1回) ・子育てに関する資料の配布	②	C	すべて親子参加での取り組みで実施。3年ぶりの開講となり、人数も制限あるなかたくさんの参加希望者が申込を希望してくれた。また参加者には開講時アンケートをとり、令和4年度の参考となるようにした。	延べ参加者数 461人	延べ参加者数 200人	R3 154名

プロセス2 意識を高める(学ぶ)

【行動計画P. 5~7】

項目	事業名	担当課	(1)令和3年度実施状況				(2)目標指標の状況		
			取組内容	協働の相手	事業の評価	効果又は理由(改善策)	基準値(H27)	目標値(R3)	現状値(R3)
				①~⑦					
(2)「協働」を体験する仕組みをつくる	協働事例集の作成・配布	市民協働推進課	協働のまちづくり推進協議会調査研究部会において作成した「市民活動に関する調査報告書」の配布を行った。	①	C	配布部数が少なかった。また、平成28年4月に作成したものであるため、状況によっては新版を作成する必要がある。	事例集の作成実施	事例集の作成充実	配布希望者への配布
(3)人材を活用する仕組みをつくる	各種審議会等委員への市民の登用	市民協働推進課	審議会・委員会等における公募による委員数51名	①	A	公募制度の積極的な活用を即していく必要がある	市民登用40人	市民登用50人	市民登用51人
	女性の人材登録制度	市民協働推進課	登録者数:21名(令和4年3月31日時点)	①	B	各種専門分野で活動している女性を人材リストに登録し、庁内へ女性の人材リストを周知したが、利用の依頼が少なく、女性の登用を促進することができなかった。	周知・促進実施	周知・促進充実	周知・促進実施
	統計調査員確保対策事業	デジタル推進課	・新規登録調査員希望者 なし ・統計調査員研修会・学習会 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面での開催(資料を配布し、事後アンケートを回収) ・栃木県統計大会参加 新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	①⑦	D	新型コロナウイルス感染拡大防止のため内容を変更し、事業実施したため。感染症対策を講じた事業の実施を検討。	希望者数149人	希望者数160人	希望者数140人
	生涯現役応援体制構築事業	高齢福祉課	シニアサポーターを地域包括ケア推進会議委員に委嘱した。	①	C	シニア世代の社会参加を促し、生涯現役社会の実現に向けた機運づくりを進める。	サポーター数3人	サポーター数10人	サポーター数2人
	生涯学習出前講座(市民編)	生涯学習課	・登録数45講座 ・延べ実施回数 3回 ・延べ利用者数 57人	①②⑤	C	・コロナ禍の影響により令和2年度は開催を中止していたが、令和3年度から感染対策を徹底した上で再開した。しかし、直前の感染状況などから延期や中止になった講座もあった。 ・生涯学習案内を7月に発行し、出前講座の周知を引き続き行う。	実施件数11件	実施件数20件	実施件数3件